

さいたま市立大宮北中学校

学校だより 5月号

令和8年4月30日(木)



048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談室)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

『人間性豊かな
実践力のある生徒』

- ◆ たしかな学力
- ◆ ゆたかな心情
- ◆ たくましい身体

ひさかたの 光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ(紀 友則)

校長 廣江 剛

「こんなにも穏やかな光が降りそそぐ春の日だというのに、どうして桜の花は、慌ただしく散っていくのだろうか」誰もが知る有名な短歌ですが、学校も毎年そう感じるがあります。辞令一つで先生方が異動し、新しい年度の準備を大急ぎで行い、新しい生徒達を迎える。そんな慌ただしい4月の中で、ほっとするのが離任式です。4月24日(金)に行われた離任式には、中島先生と吉澤先生が来校し、お二人の温かいお人柄により、とても和やかで楽しい時間となりました。そして、最後に聴いていただいた校歌も大変心がこもっていて素晴らしかったです。



さて、新年度が始まって1か月。校内には、生徒の皆さんの新しい挑戦への意欲が満ち始めています。教室で交わされる言葉や授業に向かう姿勢からは、学びに向かう真剣さと、仲間とともに成長しようとする確かな気配が感じられます。5月は、学級の空気や学習のリズムが形づくられ、これからの1年を支える基盤が整う大切な時期です。この大切な時期に、生徒の皆さんには「言葉を大切にする」「授業の規律を整える」という二つの柱を、ぜひ心に刻んでほしいと思います。

「言葉が人を創る」と言われるように、日々どのような言葉に囲まれて過ごすかによって、人は心のあり方も、行動の仕方も変わっていきます。否定的な言葉が飛び交う環境では心は萎縮し、乱暴な言葉が当たり前になれば行動にも荒さが生まれます。しかし、温かく丁寧な言葉に触れ続けると、人は自然と心が落ち着き、相手を思いやる気持ちが育ちます。学校は、言葉を通して学び、言葉を通して人とつながる場所です。だからこそ、生徒の皆さんには、自分が発する言葉に責任をもち、互いを尊重する言葉を選んでほしいのです。皆さんの発する言葉が変われば、教室の空気も、そして自分自身の未来も、よりよい方向に変わっていきます。

「授業の規律」という点では、まず、授業の始まりと終わりの挨拶をしっかりと行ってください。始まりの挨拶は「これから学ぶぞ」という覚悟を示すものであり、終わりの挨拶は「今日の学びを結ぶ」というけじめとなる大切な行為です。この二つが丁寧に行われる教室には、自然と集中した空気が生まれ、学びの質が高まります。また、授業中の「姿勢」も大切です。姿勢は、「私は学びたいのです」という意欲の表れであり、意欲のないところに成果は現れません。さらに、人の話を聞く態度も重要です。人の考えを否定したり、軽んじたりせずに、最後までしっかりと聞き合える教室は、心理的に安心できる場となります。安心できるからこそ、自分の考えを堂々と述べ、友達の意見を真摯に受け止め、主体的に学ぶことができるのです。

本校では、「みんなで創る 笑顔満開 大宮北中」を合言葉に、一人ひとりが自らの力を信じ、学びに向かい、成長していくことを心から願っています。言葉を大切に、規律を整え、互いを尊重しながら学ぶ姿勢を育てていくことで、みなさんの未来は必ず大きく開けていきます。これからも、安心して学び、挑戦し、成長できる学校づくりに、教職員一同全力で取り組んでまいります。御家庭の皆様にも、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。